

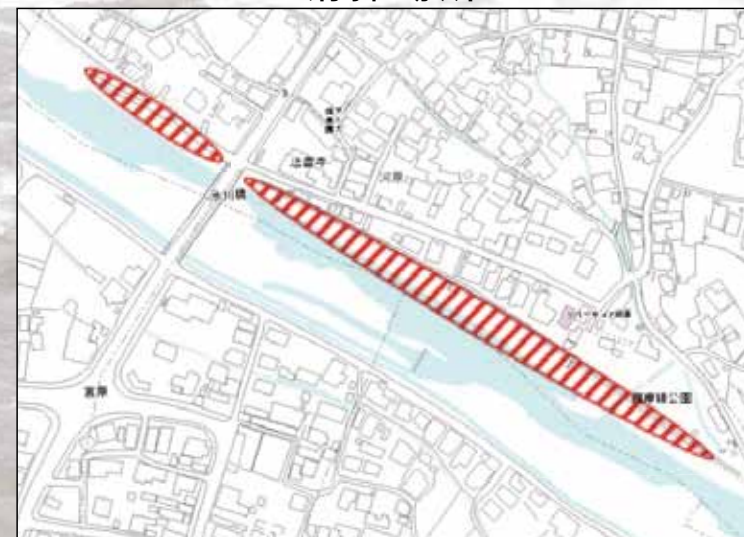


清流氷川流水対策協議会事業「氷川流域一斉清掃」参加者募集

氷川町のシンボルである「氷川」の自然環境を守り、より多くの町民が親しめる「氷川」にするため、氷川流域の清掃活動を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆日時 9月30日(日) 7時から8時まで(小雨決行)
- ◆場所 氷川橋周辺
- ◆募集締切 9月14日(金)
- ◆申込み 企画財政課 ☎52-5850

清掃場所



※協議会事業の一環で、八代市鏡町、東陽町、泉町でも清掃活動が行われます。

町有財産(土地)の売払いを実施します

入札により、町有財産(土地)の売払いを行います。入札物件や概要については、次のとおりです。

日時	10月11日(木) 10時～
会場	氷川町役場 2階 中会議室
方法	一般競争入札(期日入札)
物件	氷川町宮原字東段820番1 宅地 631.35㎡ ※面積には法面が含まれます。平坦部分の面積は約375㎡です。
予定価格(最低売却価格)	3,991,500円
申込受付期間	9月3日(月)～28日(金) 17時まで
現地説明会	9月25日(火) 13時30分 ※入札参加希望の人は、現地説明会にご参加ください。

入札参加希望の人は、入札案内書を企画財政課で配布します。<問い合わせ先> 企画財政課 財政係 ☎52-5850

町民文化

短歌

「稲妻や・・・」と一茶発句の善光寺
奇しくも雷で吾も駆け込む
北野津 宮本 末秋

ピカ・ドンと真夏の空に木の子雲
忘る事なし我の記憶に
西野津 古崎スエノ

親族の笑顔で交わす盆の膳
身体気使かう兄弟ありて
南鹿野 尾崎 京子

ささやかな安らぎ得たる新涼の
頬に冷やか爽やかし
西野津 古崎 栄子

つくづくと人間界に生まれ来し
幸せ思う野良猫追いて
吉本 橋村 正之

魂極る生命の怪しき曼珠沙華
氷川の岸に燃えんと欲す
北野津 井田 道寛

模様替へ室の整理をしてをれば
古の書に時を忘れて
吉本 高橋 澄子

俳句

迫り来る大災害の闇明り
世は末法と人は言ふなり
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

民謡を踊ろう九月発表会
選曲に湧く日奈久のサロン
西上宮 村内 一誠

山崩れ川氾濫と荒し日々
この星襲う自然界
上鹿島 前村 俊子

立神峡インターホンの説明を
蒼き流れを眺めつつ聞く
吉本 高瀬 道昭

冷房機の排気浴びつつ夕散歩
くりかえし読む方丈記秋に入る
北野津 宮本 末秋

手作りのカレー持参にプリン付き
墓参り日傘の故人を巻かれけり
南鹿野 尾崎 京子

西野津 古崎 栄子

せせらぎのぎろっちよ池や水の秋
北野津 井田 寛道

慰霊祭読経に合はす蟬の声
吉本 高橋 澄子

天界に待つ友ふえて白蓮開く
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

発心を胸に抱きて雲の峰
桜ヶ丘 吉田 照子

唐きびの不動の姿夕映えて
町 田中 澄子

風鈴の音色さやかに夕月夜
桜ヶ丘 宮崎トシ子

庭覆い空にピンクのサルスベリ
西上宮 村内 一誠

エアコンの音にも負けぬ蟬時雨れ
上鹿島 前村 俊子

川端康成を ちよびつとむとく

法道寺 本田花風

『道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。』

「伊豆の踊子」青春の恋心を綴った冒頭の二節である。作中の主人公「私」は高校の制帽、紺・白の着物を袴をはき、肩に学生カバン、朴歯の高下駄のいでたちで天城山をのぼっている。

一高生の川端自身を写した旧制高校の服装で物語は始まる。孤独な心を抱えて旅する途中、踊子の一行と出逢う。闇から光の中へ、何とも象徴的な天城峠のトンネルの出口が描かれています。

修善寺温泉一泊、湯ヶ島温泉二泊のうち、湯ヶ野温泉行きの旅姿である。『重なり合った山々や原生林や深い渓谷の秋に見惚れながら・・・』風景を巧みに表現した箇所はもうひとつ『トンネルの出口から白塗りの柵に片側を縫われた峠道が稲妻のやうに流れて来た。この模型のやうな展望の裾の方に芸人達の姿が見えた。』である。その描写は陰晴不定な天城の自然の現実をよく書き出しているのだから。その旅紀行の中で出会ったのが踊子の一行であった。

踊子の名は「薫」というが、文中ではすべて「踊子」と記述している。女は四人、四十代の女と十九歳の千代子と十七歳の雇いの踊子百合子と十四歳の「薫」である。何故「薫」だけを「踊子」と名指すのか・・・。

(続く)